

---

平成 27 年

# 6 月の普及活動状況

---

## ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

## 活力ある新産地づくり

### 郡上農林 ■ 夏イチゴ **イチゴの出荷始まる**

ひるがの高原いちご組合（高鷲町）では、早出し栽培の安定化に取り組んでいる。苗を前年秋に定植し雪の下で越冬させ、雪解けとともに生育を再開し、いち早く果実を出荷できる栽培体系である。新鮮ないちごを最も少なくなる6月から収穫できることが最大の魅力であり、本年度も6月9日から農協出荷が始まっている。

春植え慣行栽培についても、現在、開花の盛りで、7月中旬には出荷が開始される予定である。

農業普及課では、土壌水分や腐植資材実証ほの調査を続けるとともに、高品質の果実が継続して販売されるよう、引き続き現地指導を行っていく。



【作期安定拡大を目指す】

### 恵那農林 ■ クリ **東美濃地域のクリ生産の拡大を目指し関係機関の意識統一を図る！**

～「東美濃『クリ地産地消(商)拡大』プロジェクト専門チーム会議」を開催～

恵那地域のクリは、地元菓子業者との契約による高単価での取引が中心だが、更なる契約量の増加が求められている。このような中、平成18年から生産者や関係機関等により、「東美濃『クリ地産地消(商)拡大』プロジェクトチーム」が組織され、活動している。

農業普及課は、6月30日に同チームの下部組織である専門チーム会議を開催し、現在進行中の第2期産地拡大計画の進捗状況の確認、これまでの活動実績の整理と評価を行い、計画の見直しについて協議した。中山間農業研究所で新たに育成された2品種の位置づけについても了解が得られ、今後の取り組みについて関係機関の意識統一が図られた。



【チーム会での検討状況】

### 下呂農林 ■ スイートコーン **第7回研究会を4地区で開催**

下呂市スイートコーン研究会は、6月5日～9日、市内の4地区のほ場で現地研修会を開催し、生産者計35名が参加した。

農業普及課からは重要害虫アワノメイガ対策や鳥獣害対策について説明し、JAから今後の栽培管理について講義を行った。

これまでのところ、生育は順調に推移しており、良質なスイートコーンが収穫できる見通しである。



【現地研修会の様子】

## 売れる農畜産物づくり

### 西濃農林 ■ 機能性成分米 **「LGCソフト」実証ほを設置**

岐阜県機能性成分米ビジネスモデル構築支援事業の実証ほとして、低グルテリン米品種「LGCソフト」の田植えが、5月28日に昨年度に引き続き養老町の生産者ほ場にて実施された（面積：13a）。

今年は昨年の実績をふまえ、栽植密度を減らして病気の発生を抑える疎植栽培を取り入れた他、稲の生育にあった施肥体系となるように栽培方法を変更した。今後、生育・収量調査を行い、当該品種の安定生産に向けた栽培方法を検討していく予定である。



【田植えの様子】

## 揖斐農林■茶 関西品評会 上級茶仕上げ研修会 ～出品茶に魂を吹き込む～

5月26日、6月4、5、10、12、13日の6日間、揖斐川町実行委員会、池田町推進協議会、関係町、J A、県関係者による出品茶の仕上げ研修会が行われた。農業技術センター職員を講師に出品茶に合わせた調整を行い、約30人体制による選別を実施した。農業普及課は、その後の再乾燥、袋詰め、出品までの計画、進行管理、作業員の指導を担当し、関係機関とともに支援にあたった。



【調整風景】



【全神経を集中！選別作業】

この後、生産組合が主体となった仕上げが各地で行われ、管内で60点の出品茶が出揃った。生産者は「出来ることは全てやった」自信に溢れていた。8月5日～7日には揖斐川町健康広場いびがわアリーナにおいて出品茶審査会が行われる。

## 東濃農林■甘原ええのお 水稻不耕起V溝直播の本格導入

多治見市の(有)甘原ええのおでは、昨年までの2年間の試作を踏まえ、水稻不耕起V溝直播機の事業導入を行った。今春からV溝直播の本格栽培となったが、4月は長雨に阻まれ播種は予定より1か月も遅い4月27日となった。出芽始めは予定より1週間遅くなったが、その後好天に恵まれて生育は早く、入水は昨年より3日遅い程度、生育は現在では昨年並みに追いつき、ええのお関係者も栽培の安定性に感心する結果となった。



【入水後のV溝直播の生育(6月上旬)】

V溝直播は、2月の普及活動発表会で管内農家や関係者に紹介したこともあり、早速、瑞浪市内の営農組合が興味を示し試作実証を開始することになり、こちらも4月末の播種で現在順調に生育している。農業普及課では、食用米のほか飼料米生産も視野に、地域での米生産の更なる低コスト化に繋がればと考えている。

## 農業経営課■酪農 乳用牛群検定組合の合同技術研修会を開催

美濃酪連乳用牛検定組合(管轄:中濃・東濃地域)と県域第一乳用牛群検定組合(管轄:岐阜・西濃地域)は、6月16日(火)、美濃酪農農業協同組合連合会事務所(美濃市)で合同技術研修会を開催した。研修会では農業経営課農業革新支援専門員が「乳成分でわかる第一胃微生物の住み心地」と題して牛群検定結果を乳牛の飼料給与と改善に活かす技術を講習し、牛群検定に参加する酪農家等15名が熱心に聴講した。円安に伴う飼料価格の高騰が続き全国的に酪農家が減少しているが、牛群検定は、指導員が毎月1回酪農家を訪問し乳牛1頭1頭の乳量や乳成分などを調査して技術指導を行うことにより健康な乳牛づくりと経営基盤の強化を図る大切な事業である。両組合は今年7月に合併し組合員の力を結集して、よりおいしくて安全・安心な牛乳を消費者に安定供給するための基盤強化を図っていくこととしている。



【合同技術研修会】

## 多様な担い手育成・確保

### 岐阜農林■いちご 若手生産者に対する勉強会を開催

6月19日、本巣市の若手生産者の育苗ほにおいて、いちご栽培勉強会を開催した。本巣市の若手生産者、新規就農者研修施設7期生の8名が参加し、各ほ場で栽培管理の方法について説明し、疑問点や対応策について意見交換を行った。

うどんこ病が全般に発生しており、薬剤防除の履歴や効果、薬害などが議論となった。また、6月に就農した7期生は、他の生産者の育苗管理について関心が高く、積極的に質問をするなど情報収集に努めていた。

農業普及課からは、管内いちごの生育状況や栽培管理について情報を提供した。今後は、若手生産者の栽培状況を確認し、育苗管理、炭そ病対策について指導を行う。

【右：勉強会の様子】



### 中濃農林■集落営農 法人化に向けた検討会

6月17日に関市上白金地区、6月25日に関市上大野地区で農地集積推進チームが主体となり、集落営農組織等の法人化に向けた検討会を開催した。両地区とも本年度3回目の開催となる。

農地集積推進チームは関市役所・JAめぐみの・中濃農林事務所等で構成し、担い手への農地集積を推進している。

両地区には、営農組織はあるものの農地中間管理事業を活用した農地集積の要件である法人にはなっていないことから、本年度中の法人化を目指しており、検討会には税理士等も参加し、経営分析や定款等の検討を行った。

今後とも、これまで検討された課題を整理しつつ、法人化設立に向けて、関係機関が一体となって支援活動を行っていく。



【検討会風景】

### 可茂農林■可茂地区指導農農業士会 今年度活動計画を検討

可茂地区指導農農業士会では6月15日に全体会議を開催し、27年度の活動内容を検討した。今年度は、中濃ブロックの現地研修当番であり、研修は8月25日に白川町、東白川村で実施することになった。現地研修は、来年秋に開催される全国農業担い手サミットのコース候補地等を視野に入れて今後詰めていくことになり、内容は地域づくりの一環として継続的に取り組めることを盛り込みたいとの意向が会長から示された。他に農業大学校農家派遣学習の受け入れ農家の選定、若手農業者との交流会、情報交換会他について検討した。若手農業者との交流会は若手農業者の裾野を拡大していくことが重要との意見が出て、今年度は、農業大学校生および加茂農林高等学校の生徒との交流を模索していくこととした。また、情報交換会を12月4日に開催することに決定し、OB等なるべく多くの人に参加していただけるようFAX通信を作成して早くから呼びかけることになった。

農業普及課では、会長の意向を受けて、地域づくりと地域の担い手育成が継続してできる体制をつくるため、管内の地域資源の洗い出しと白川地域の過去50年の地域(農業)の歩みを整理し、課内会議で共有した。今後は、課内での話し合い等を重ね、市町村、農業団体と連携して地域へ入り込める体制を整備していく予定である。

また、6月18日には、生徒との交流を具現化するため、会長と農業普及課担当者が加茂農林高等学校を訪れ打ち合わせを行った。

### 飛騨農林■新規就農者 新規就農者激励会を開催

6月11日(木)に、高山市において指導農農業士会、青年農業士会、飛騨農林事務所の共催で「新規就農者激励会」を開催した。当日は新規就農者18名が出席し、高山市・飛騨市・農業大学校・飛騨高山高校、農協等関係機関からも多数の出席があり、総勢64名で盛大な激励会となった。

新規就農者からは、「自分の段取りや要領の悪さ、甲斐性の無さに驚き腹が立つ。しかし今後それを克服し、新たな農業者の見本となるような農業がしたい。」など、前向きな意見がたくさん出された。これらに対して、農業士や関係機関からは、激励の言葉や支援制度の紹介が行われ、その後、相互で質疑や意見交換が行われた。

農業普及課では、開催までの企画・調整及び当日の運営支援を行った。



【夢を語る新規就農者】